

# 自学・自主研究部会

部会長：附属中学校 木村真冬

部会員：附属中学校 森祐樹 佐藤吉高 木村真冬 長谷川愛（育児休暇中）

## 2023年度活動報告：

今年度も附属中学校のみのメンバーとなったが、附属幼小高大や他中の実践なども視野に入れつつ、探究的な学習のあり方について検討をすすめることとした。

附属中学校では、デジタルをベースとした自主研究運用システムの試行が始まっているが、アナログとデジタルが混在したことで、教員にも混乱が生じていた。デジタルの利便性を活用しつつ、『自主研究日誌』や対面で行ってきた指導の良さを焦点化して残すためにどうすべきかを中心に議論を行った。内容は中学校研究部に提案し、2024年度の自主研究運用システムや自主研究ガイドサイト作成に生かすこととした。

また、幼小中高大にわたって自ら設定したテーマを追究する学習を行っていることは、お茶の水の特色として強く発信していきたい内容である。2023年度の教育公開研究会において、3年間の研究の振り返りを行う「ラウンドテーブル」を改めて公開して参加者から高評価をいただき、その意を強くした。附属校間で研究発表会に参加する機会も少しずつ復活してきているため、今後さらに附属間の連携を深めて外部へも発信していきたい。

### ◆附属中学校自主研究の課題について

#### ①カリキュラムやねらい

各段階の目標・評価規準を明確化する。

指導方法（グループの特徴、おさえてきたいポイント、困りやすいポイント）の課題を生徒や教員同士が共有することが必要。

研究部が設定したカリキュラム以外に、学年・クラスで取り組んだ内容（テーマを掘り下げる等）を共有し、定番化させる。

（研究部と学年担任の役割を整理する。）

#### ②自主研究日誌について

1 研究への取り組み方

2 課題の決め方（マッピング・文殊・事前調査）

3 研究の進め方（三つの型・文献収集・アンケート・データ活用・インタビュー・アポイントメント）

4 研究事例

5 発表の方法（口頭・原稿・ハンドアウト・視覚資料・プレゼン）

研究日誌記入とフィードバックのルールの確認が必要

#### ③自主研究関連資料 要項・集録の保管ルールの確認が必要。

#### ④発表場面の工夫 縦割りの良さを生かす 公開・発信の機会にする

### ◆生徒アンケートの分析

2022年度卒業生 2023年度3年生アンケート

→ 困った時のアドバイスが欲しいという要望は従来と同様

→ 専門家につなげる、過去の例を共有、大学との連携強化

### ◆他附属との連携

附属高校SSH発表会へ中学生・保護者の参加